

前期選抜 2 日目

2020.3.5

県立高校入試「前期選抜」は今日が2日目となる。梁川高校の場合だが、一般選抜を受験する生徒は「一般面接」、特色選抜を受験する生徒は「特色検査」と「特色面接」を受けるようになる。

この特色選抜が今回の入試制度のそれこそ特色の一つである。各高校の実施要項をみると、昨年度までのI期選抜とシステム上では似ているようだが、内容はだいぶ違っている高校が多い。本校の場合は、昨年度までのI期選抜に近い。

改めて、「前期選抜」を詳しくみってみる。「特色選抜」という言葉だが、きちんと言うと「各高等学校の特色を踏まえた選抜」となる。一方、「一般選抜」は、「中学校における学習活動の成果を総合的にみる選抜」である。

特色選抜の募集定員率は、募集定員の5%～50%の範囲内で、各高等学校が学科ごとに設定することになっている。したがって、5%の学校があれば、本校のように40%の学校もある。定員率でも特色を出せるようになっている。

また、出願資格をみると、「各高等学校が示す特色選抜における『志願してほしい生徒像』を踏まえ、当該学科を自ら志願する動機・理由が明白かつ適切である者」となっている。この「志願してほしい生徒像」に最も特色が出てくる。ここが、特色選抜の肝である。また、「自ら志願する」となっていることから、いわゆる“自己推薦”であることがわかる。

出願書類には、「調査書」というものがある。これは、一般的には“内申書”と言われているかもしれない。この内容は受験生も保護者も見ることにはできない。「各教科の学習の記録」は点数化される。「特別活動等の記録」も多くの場合点数化される。他には、「総合的な学習の時間の記録」「出欠の記録」「長所・特技等の記録」などがある。生徒と保護者からすると、各学校ごとに作成され配付されている「通知表・通信票等」でおおよそのことはわかるようになっている。

選抜方法だが、特色選抜では、「各高等学校の特色や学科の特性等に配慮しつつ、志願者の個性や学ぶ意欲を重視し、その教育を受けるに足る能力・適性等を総合的に判定し、合格者を決定する。」となっている。一方、一般選抜では、「各高等学校の特色や学科の特性等に配慮しつつ、その教育を受けるに足る能力・適性等を総合的に判定して選抜する。」となっている。違いは、「志願者の個性や学ぶ意欲を重視し」である。これを調査書や特色面接等でみることになる。

本校の前期選抜は2日間で終了するが、学校によっては3月6日（金）までが前期選抜実施期間である。この後のスケジュールは、3月11日（水）に該当者がいれば「追検査等」を行うことになる。そして3月16日（月）が「合格者発表」である。入試と発表の間に卒業式があることは昨年度までと変わらない。3月1日（日）の県立高等学校の卒業式もそうであったが、3月13日（金）の各中学校の卒業式も、人数の制限、時間の短縮などの対応がされることであろう。それでも卒業証書授与がメインであることに変わりはない。本校の卒業生はりっぱな態度であった。各中学校の卒業生も義務教育の集大成としてりっぱな式にしてくれるものと思う。